



予常々思ふ書記神皇正統  
 記大日本志類聚之改記  
 等々書き流して吾國皇統  
 之神代より連綿する天皇  
 曰く思ふ事ら過去今  
 上睦仁天皇道百廿二代  
 明々赫々美玉宇内万国比  
 類事なり



神代より連綿と天

口く思願せらば今

上照仁天皇是百葉二代

明々赫々美々宇口万国比

類百子子子

神世七代

國常立尊

天鏡尊

天萬尊

沫蕩尊

伊弉諾尊

天照大御神 天孫吾勝勝速日

天之忍穗耳命

淡路洲 大日本 豊和津洲

四國

伊豫二名洲 筑紫洲

九州

隱岐洲 伏渡洲 越洲

大洲 吉備子洲

拓大洲

養浩堂藏書

陽神丸旌

陰神丸旌

中國



惟皇

欽明

鍾麗

天智

天武

聖武

孝廉

桓武

平城

崇光

淳和

文德

法和

宇多

醍醐

後深

白河

堀河

鳥羽

順德

德和

光孝

孝明

仁壽

齊明天皇即位七年山明于

新朝

○ 仁孝帝

齊明天皇即位七年山明于

朝倉宮

皇太子中大兄素服副軍國事

聖身伐新羅不克

唐高宗伐百濟平之

高宗遣劉德高率來直好

皇太子遷都近江志賀

天智天皇即位于志賀宮

聖身內大臣藤原鎌倉亮

天皇四十六崩志賀宮

大友天皇崩二十六

天武天皇即位飛鳥淨見宮

其聖身始置不破國

天皇山崩六十五皇太后臨朝

稱制 大津皇子反賜死

皇太子皇孫皇孫

持統天皇即位

滋賀建都四十四年

和銅年

元明天皇遷都平城

實業平城建都七十四年

和銅年  
 元明天皇遷都平城  
 寶樂平城建都七十四年  
 延智年

桓武天皇

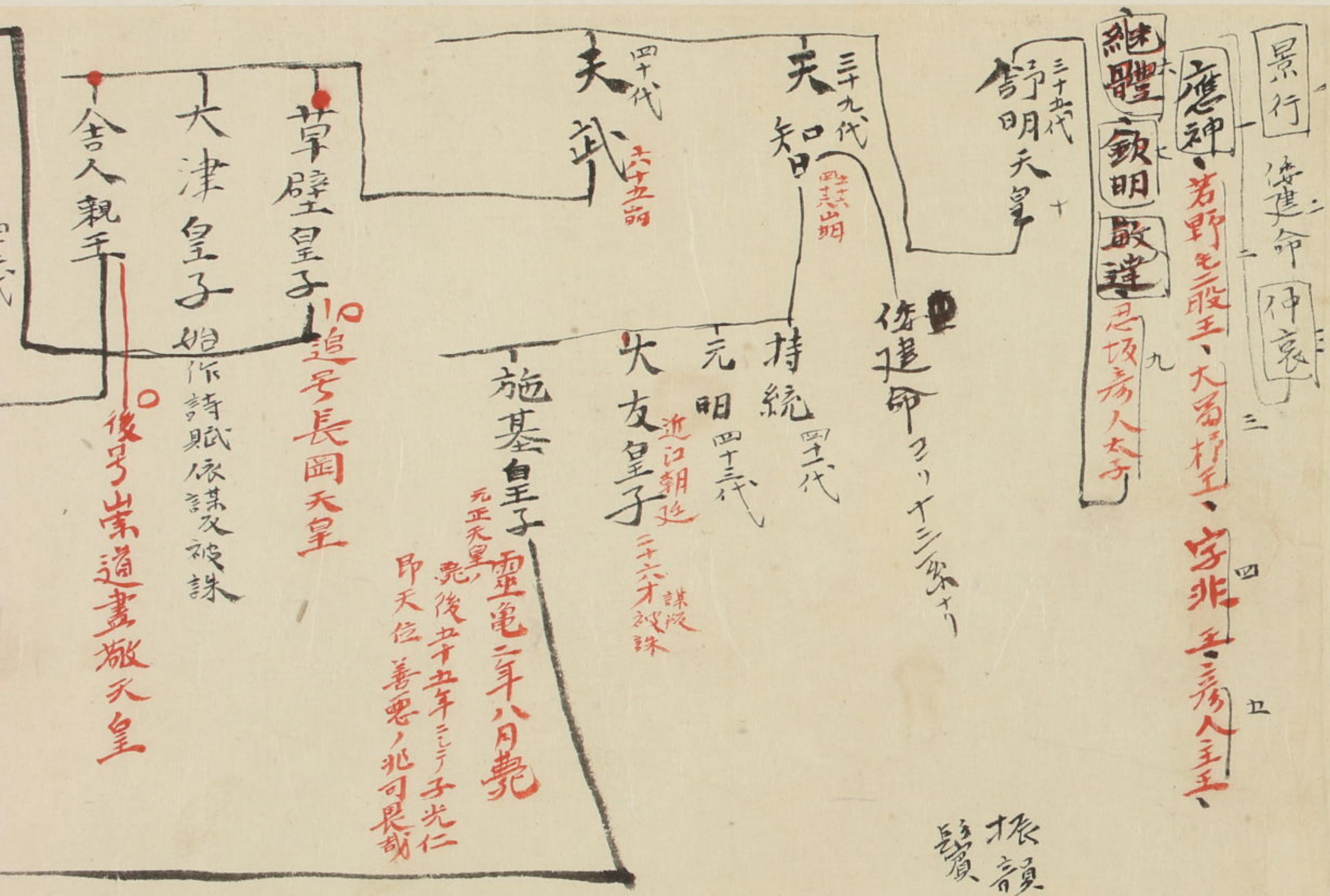
遷都山城曰平安城

山城建都一千七百四十四年

今上天皇

明治元年遷都江戸称  
 東京今二千三年

以上明治廿三年調



草壁皇子 追号長岡天皇

大津皇子 始作詩賦依謀反被誅

舍人親王 後号崇道天皇

文武天皇 四三代

大炊 淡路廢帝 四十七代 贈淳仁

元正天皇 四十四代

○天武草壁文武聖武壽謀 天武系止傳而絶

聖武天皇 四十五代

孝謙天皇 四十六代

稱徳天皇 重祿 自天武至稱徳九十七年

光仁天皇 四十九代

和銅己酉誕生神護景雲 四十六為皇太子同年即位天德 禪位太子七十三崩

桓武天皇 五十代

孝德帝時大臣と在在、分り大臣 成務の乱内亂終る、のころを

藤原の勢の所行又大連 皇のあり大臣大連並にテ 政

と一、此の流弊の古きを也の

左の方臣より

三六代 齊明天皇の御孫、重祿より重祿天皇の 本朝の元を始り

孝謙帝の御孫、桓武天皇の御孫

孝徳帝の時大臣と在在に合つ大臣  
成務の御内家祿を以てのくを  
りてし神武の御代又大連  
兼大連の大臣大連並にテ政  
と一し此の御代大臣と在在に  
左の大臣とあり

三六代  
齊明天皇の御代、重祿の御代、重祿の御代、  
本朝の御代、御代

孝徳帝の時大臣と在在に合つ大臣  
三六代 重祿の御代、重祿の御代、  
重祿の御代、重祿の御代

孝徳帝の時大臣と在在に合つ大臣  
重祿の御代、重祿の御代、  
重祿の御代、重祿の御代

孝徳帝の時大臣と在在に合つ大臣  
重祿の御代、重祿の御代、  
重祿の御代、重祿の御代

孝徳帝の時大臣と在在に合つ大臣  
重祿の御代、重祿の御代、  
重祿の御代、重祿の御代

孝徳帝の時大臣と在在に合つ大臣  
重祿の御代、重祿の御代、  
重祿の御代、重祿の御代



又皇太子親王（一）の如き

藤原の内大臣海定の子不比等（二）の

古良朝臣の臣言持尾（三）の七元（四）の

藤原の氏（五）の藤原の氏（六）の

藤原の氏（七）の藤原の氏（八）の

藤原の氏（九）の藤原の氏（十）の

藤原の氏（十一）の藤原の氏（十二）の

藤原の氏（十三）の藤原の氏（十四）の

藤原の氏（十五）の藤原の氏（十六）の

藤原の氏（十七）の藤原の氏（十八）の

藤原の氏（十九）の藤原の氏（二十）の

藤原の氏（二十一）の藤原の氏（二十二）の

藤原の氏（二十三）の藤原の氏（二十四）の

藤原の氏（二十五）の藤原の氏（二十六）の

藤原の氏（二十七）の藤原の氏（二十八）の

藤原の氏（二十九）の藤原の氏（三十）の

藤原の氏（三十一）の藤原の氏（三十二）の

藤原の氏（三十三）の藤原の氏（三十四）の

藤原の氏（三十五）の藤原の氏（三十六）の

藤原の氏（三十七）の藤原の氏（三十八）の

藤原の氏（三十九）の藤原の氏（四十）の

藤原の氏（四十一）の藤原の氏（四十二）の

藤原の氏（四十三）の藤原の氏（四十四）の

藤原の氏（四十五）の藤原の氏（四十六）の

藤原の氏（四十七）の藤原の氏（四十八）の

藤原の氏（四十九）の藤原の氏（五十）の

藤原の氏（五十一）の藤原の氏（五十二）の

藤原の氏（五十三）の藤原の氏（五十四）の







伏見 貞時 五十三崩  
土庫宮三子 後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ  
三子或受禪 皇弟中 院御多 新院云  
後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ

伏見院時宗ノ謀ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
坊皆関東ノモノイカ  
正統化ノ説ハ心ヲ西欽時宗ノ言ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
佛心ニ悦ビシハ心ヲ西欽時宗ノ言ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
又後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ  
此ノ二院相争トイハレシ事  
皇弟中 院御多 新院云  
後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ

此年九月 鎌倉ノ將軍 惟親 俄又上洛シテ  
後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ  
鎌倉ノ將軍 惟親 俄又上洛シテ  
後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ

後伏見 貞時  
土庫宮三子 後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ  
伏見院時宗ノ謀ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
坊皆関東ノモノイカ  
正統化ノ説ハ心ヲ西欽時宗ノ言ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
佛心ニ悦ビシハ心ヲ西欽時宗ノ言ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
又後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ

花園 貞時 高時  
土庫宮三子 後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ  
伏見院時宗ノ謀ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
坊皆関東ノモノイカ  
正統化ノ説ハ心ヲ西欽時宗ノ言ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
佛心ニ悦ビシハ心ヲ西欽時宗ノ言ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
又後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ

後醍醐 高時 四十九才  
土庫宮三子 後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ  
伏見院時宗ノ謀ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
坊皆関東ノモノイカ  
正統化ノ説ハ心ヲ西欽時宗ノ言ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
佛心ニ悦ビシハ心ヲ西欽時宗ノ言ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
又後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ

九月 土庫宮三子 後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ  
伏見院時宗ノ謀ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
坊皆関東ノモノイカ  
正統化ノ説ハ心ヲ西欽時宗ノ言ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
佛心ニ悦ビシハ心ヲ西欽時宗ノ言ニ事東宮ニシテ本院新院御中ヨリ言セシム  
又後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ後深草院中子路土此時太上皇受アリ





天子ノ位ニ付カセテ方々ニ盡クシテ方紀申シテ

後花園 百九	後土御門 百二	後栢原 百三	後奈良 百四	正親所 百五	後陽成 百六
後水尾 百七	明正 百八	後光明 百九	後西院 百十	靈元 百十一	東山 百十二
中御門 百十三	櫻町 百十四	後櫻町 百十五	桃園 百十六	後桃園 百十七	紹運 百十八
光格天皇 百十九	仁孝 百二十	孝明 百二十一	今上 百二十二	後桃園 百二十三	紹運 百二十四
伏見 百二十五	後伏見 百二十六	花園 百二十七	後村上 百二十八	後龜山 百二十九	後小松 百三十
後堀河 百三十一	後深草 百三十二	後宇多 百三十三	後二條 百三十四	後醍醐 百三十五	後光嚴 百三十六
後嵯峨 百三十七	後深草 百三十八	後宇多 百三十九	後二條 百四十	後醍醐 百四十一	後光嚴 百四十二
後堀河 百四十三	後深草 百四十四	後宇多 百四十五	後二條 百四十六	後醍醐 百四十七	後光嚴 百四十八
後堀河 百四十九	後深草 百五十	後宇多 百五十一	後二條 百五十二	後醍醐 百五十三	後光嚴 百五十四

伏見

○山字天皇

榮仁親王 貞隆親王

桂宮

○正親所天皇

智仁親王 淑子内親王

右内侍

○後陽成天皇

母仁親王 煇仁親王 九代

關原

東山天皇

直仁親王 昌王 六代

山階

是親王 伏見皇子

東伏見

嘉彰親王 嘉彰親王 嘉彰親王 嘉彰親王

藤原

仲任親王 仲任親王







賴忠敏述子  
村上女御

賴忠  
益原義公

實資高遠懷平也

懷平

經通資平經任

師輔

伊尹御神謙德公

河内國刀鍛治

有成

永延年斗間之人

本朝

一條天皇御代

御堂嶺白道長

前賴忠兼家看隆

時

永延年斗改曆當

宋太宗雍熙四年

距今明治二十四年

實九百五年也

宋太宗雍熙四年  
距今明治二十四年  
實九百五年也

一條帝時白氏文集最  
行于本朝

帝后定子為關白道隆

女子頗深學問有賢聲

清少納言事此白皇后少納言

清原元輔女香爐雪

故事會笑人口

兼家之子道隆道長九條  
道隆

大江巨衡  
公仕大納言其表ヲ時  
有為女子之書也其表不念  
仍大江巨衡之類ハ巨衡之ヲ  
難シ如何書セハヨカラント逸  
事ハ深シ書ニシテ考テ公仕  
ハ野レオアリ誘ヒ人ト我門  
門ノ盛ニト書テ不致テ其ニ  
ナラシメ 沈滞ニシテ邊門  
ノ盛ニシテ叙セラレシ  
公仕道ニ其ニ用ニ

管家後草不門寺

苦家後草不出門詩曰

一從謫落就茶荆萬死競跼  
踏情都有樓纒省危色觀者  
寺只聽鐘聲中懷好逐孤  
雲去外物相逢滿月迎此地雖  
身無檢繫何為寸步出門行  
神德充溢宇宙故落天錫知  
此詩書中常安曰大元禱刺  
字天錫而絕人發道士第官至淮西  
廉訪司經歷有詩如善楷書

天滿意

無常說法現神通千里飛梅  
一夜松萬事夢醒雲吐月觀  
音寺裡一鐺鐘

此詩書中常安曰大元禱刺  
字天錫而絕人發道士第官至淮西  
廉訪司經歷有詩如善楷書

一夜松萬事夢醒雲吐月觀  
音寺裡一鐺鐘

5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6



心鏡

早稲田大学図書館  
文書 27  
D 59







皇統記

早稲田大学図書館  
文書 27  
D 59